群教セ	E03 - 03
	平 14.206 集

望ましい人間関係を深める指導の工夫

――学校行事をつなぐ、学級活動における

「振り返り」に視点を当てて――

特別研修員　　塚越　房江

《研究の概要》

本研究は、学校行事後の学級活動における「振り返り」に視点を当て、望ましい人間関係を深める指導について実践的に研究したものである。具体的には、学校行事後にその活動への取組のよさを振り返り、その結果を次の学校行事へ生かしていくことによって、３つの学校行事を重ねていくにしたがって、「①互いのよさを認め合い」「②互いに協力し合い」「③互いのよさを高め合う」と段階を追って、望ましい人間関係を深める活動を行った。
【キーワード；特別活動　中学校　学級活動　学校行事　振り返り　人間関係】

Ⅰ　主題設定の理由

生徒たちは、学級という集団を生活基盤として、一日の大半を学校で過ごしている。生徒たちが学校や学級に適応できるかどうかは、学級内での人間関係に拠るところが大きい。学校生活において、生徒たちが学級集団の中で、互いのよさを認め合い、協力し合い、高め合いながら、望ましい人間関係を築いていくことは、現在はもちろん、将来にわたって自己実現を図り、健全な社会生活を営んでいくために大切であると考える。

中学３年生の本学級の生徒たち（男子 20 名、女子 17 名）は、明るく元気で、みんなで和気あいあいと過ごしている。しかし、授業中にけじめが付かなくなってしまうことがあっても、注意し合ったりすることは少ない。級友に対して、「もっと互いを理解し合い、運動会や合唱コンクールでまとまっていければいい」、「団結力がもっと強くなって、行事とかに取り組めたらいい」という願いを持っている。中には「今のクラスの仲間は、うわべだけの関係だ」と感じている生徒もいるが、その生徒も「クラスの仲間が一致団結できたらいい」と願っている。学校行事には、協力して活動することによって団結力が高まっていくことを実感する場がたくさんある。そこで、本学級の生徒たちに、学校行事での体験活動を重ねることによって、学級集団としての団結力を高め、望ましい人間関係を深めていきたいと考えた。

集団内での望ましい人間関係を深めていくために、「①互いのよさを認め合い」「②互いに協力し合い」「③互いのよさを高め合う」段階を設定し、学校行事での体験活動を重ねるごとに、①から③へと段階的に高めていきたい。特に、体験活動後の「振り返り」に視点を当てて、生徒が自分の活動を振り返り、その結果を次の体験活動へとつなげ、新たな目標や課題が持てるようにしたい。

本研究では、校内バレーボール大会、運動会、合唱コンクールの３つの学校行事と関連させる。学校行事後の学級活動において「振り返り」を行い、その結果を次の活動に生かしていくようにすれば、学校行事を重ねるごとに望ましい人間関係が深まっていくようになると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

学校行事後の学級活動における「振り返り」を通して、その成果や課題について話し合い、その結果を次の活動に生かしていくようにすれば、学校行事を重ねるごとに学級内の望ましい人間関係が深まっていくことを、実践を通して明らかにしていく。

Ⅲ　研究の見通し

１　バレーボール大会後の「ヒーローは〇〇だ！」（ここでの「ヒーロー」とは、学級のために地道に努力していた者）で、大会当日及び大会へ向けての取組の様子を全員で振り返ることにより、互いのよさを認め合うことができるようになるであろう。

２　運動会後に、運動会当日及び練習時の様子を撮ったビデオの視聴及び、「頑張っていたねカード」で、運動会へ向けての取組の様子を全員で振り返ることにより、互いに協力し合うことができるようになるであろう。

３　合唱コンクールへ向けての実践の途中に、「ヒーローを目指す君への手紙」・「ヒーロー宣言」で、合唱コンクールに向けての取組を全員で振り返ることにより、互いのよさを高め合うことができるようになるであろう。

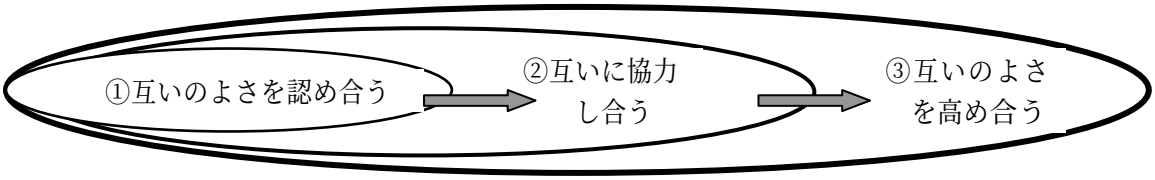
Ⅳ　研究の内容

１　基本的な考え方

(１)　望ましい人間関係を深めるとは

望ましい人間関係が深まった生徒とは、学級集団の中に自分の居場所があり、学級の中で困っている人がいたら助けるなど、周りの人のことや学級集団全体のことを考えながら活動することができる生徒である。また、活動の目標や取り組み方などについて互いに意見を出し合い、相談し合いながら力を合わせて活動に取り組んでいくことのできる生徒である。

望ましい人間関係が深まっていく過程を次の①～③と考えた。



①　「互いのよさを認め合う」段階

級友との関わりの中で相手のよさを認め、また、自分のよさが相手に認められ、それを自分なりに自覚する段階である。「よさ」とは、一人一人の個性のことである。具体的には、一人一人の活動への意欲、努力の様子、努力の地道さなどの活動への取組の前向きさであると考えた。級友のよさ、即ち個性の違いに気付き、それを認め合うことによって、この集団にいてよかったという実感を持って、生き生きと活動できるようになると考える。

②　「互いに協力し合う」段階

活動の学級の目標の達成に向けて、一人一人の生徒が自分にできることを精一杯努力し、協力し合っていく段階である。それぞれの個性は違うが、学級の目標の達成に向けて力を合わせて前向きに取り組むことによって、自分一人ではできないこともみんなと力を合わせるとできるようになることを実感し、団結していくようになると考える。

③　「互いのよさを高め合う」段階

集団のみんなの個性を認め合い、みんなと関わり合うことによって、集団としての意識が高まっていく段階である。集団意識が高まっていくことによって、周りの人や集団全体のことを考えて活動に取り組むことができるようになり、学級の目標の達成に向けて、互いに意見を出し合い、相談し合いながらみんなで団結して活動に取り組んでいくようになる。その取組を通して、望ましい人間関係が深まっていき、集団、個人ともに高まっていくと考える。

(2)　学校行事について

生徒たちが実際に体験し、体で感じ取ることによって学ぶことがたくさんある。頭で理解する知識でしかなかったものが、体験を通して学ぶことによって、生活の中で生きる知恵として定着するとともに、感性が豊かになっていくのである。そのような体験を通して学ぶ活動が、学校行事にはたくさんある。１つの学校行事で学んだことを次の学校行事へつなげ、高め合っていくことによって、学級集団の人間関係を深めていくことができると考える。

(3) 学級活動における「振り返り」について

次の学校行事につなげるためには、学校行事後の「振り返り」が大切である。学級活動において、活動の過程における努力の様子や意欲の高まりなどを重視し、そのよい点や進歩の状況、取組のよさなどを中心に振り返り、その結果を次の学校行事へとつなげ、新たな目標や課題が持てるようにしていくことが大切である。「振り返り」の仕方としては、集団全体に目を向け、相手のよさや自分のよさに気づくように、班のメンバーからのメッセージや級友への手紙など、生徒が興味を持ちながら、無理なく自然に「振り返り」ができるように工夫した。

(4)　全体構想図について

[本校の学校教育目標]　**共　に　響　き　合　い** ―― 自　立・探　究・拓　く ――

[研究主題]　**望ましい人間関係を深める指導の工夫**
―学校行事をつなぐ、学級活動における「振り返り」に視点を当てて―

○望ましい人間関係が深まった生徒

学校行事③
合唱コンクール

（見通し３）

（見通し２）

学校行事②
運　動　会

（見通し１）

学校行事①
バレーボール大会

見通し	場	手　だ　て	目指す生徒像
見通し３	学級活動	・「ヒーローを目指す君への手紙」及び「ヒーロー宣言」―合唱コンクールへ向けての実践の途中での振り返り	・互いのよさを高め合うことができる生徒
見通し２	学級活動	・練習時と大会当日のビデオの視聴及び「頑張っていたねカード」―運動会後の振り返り	・互いに協力し合うことができる生徒
見通し１	学級活動	・「ヒーローは○○だ！」―バレーボール大会後の振り返り（この前に「ヒーローとは？」）	・互いのよさを認め合うことができる生徒

[生徒の実態]　○明るく元気で、仲良く、みんなで和気あいあいと過ごしている。　○授業中けじめが付かなくなってしまうことがあっても注意し合うことが少ない。　○「もっとお互いを理解し合い、運動会や合唱コンクールでまとまっていければいい」、「みんな仲良くなって、団結力が強くなったらいい」、「団結力がもっと強くなって、クラスが一つになって行事とかに取り組めたらいい」という願いを持っている。

２　実践の概要及び結果と考察

検証に当たっては、学級全体及び抽出児の活動の様子、手だてとしての「頑張っていたねカード」「ヒーローを目指す君への手紙」「ヒーロー宣言」などの記述内容、個人の目標、学級の目標、「３つの行事を振り返って」という振り返りカード等を中心に行った。

抽出児Ａ子は、３年進級当初、新しい学級での人間関係に戸惑い、学級内の人間関係や自分の生き方などに深く悩んでいた。学級での人間関係は表面的で浅いものであると考えており、強い孤独感を持っていた。

(1)　互いのよさを認め合うことができるようになったか。（見通し１）

ア　実践の概要

バレーボール大会後の学級活動における「振り返り」で、バレーボール大会へ向けての取組の様子を全員で振り返り、みんなのために地道に努力していた「ヒーロー」の具体的な行動を挙げ、その取組の様子を確認し合った。

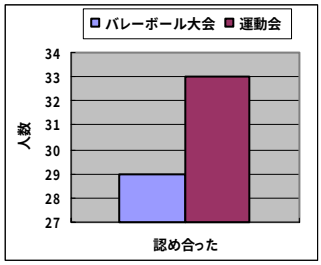
また、その「振り返り」の結果を踏まえて運動会へ向けての個人の目標及び学級の目標を決め、練習計画を立てた。

イ　結果と考察

学級活動でのバレーボール大会後の「ヒーローは〇〇だ！」による振り返りでは、「朝練にいつも早く来ていた人」「朝練に毎日来ている人」「練習しようと呼びかけている人」「バレーボールが苦手な人に教えている人」「積極的にチーム作りをしている人」など「ヒーロー」の具体的な姿が挙げられた。学級の中での「ヒーロー」の取組の様子を探すことにより、学級の友達の取り組み方や意欲に目が向けられていった。そして、「早く」「毎日」「呼びかける」「教える」「積極的に」など相手のよさに気付き、そのよさを認めていった。また、自分の取組が相手に認められたこともわかり、互いのよさを認め合うことができた。

資料１は、運動会後の「互いのよさの認め合い」についての自己評価の結果であるが、その人数の推移を見ると、手だてを特に行わなかったバレーボール大会の時に比べ、運動会の時には、その人数が 10%増えた。また、90%の生徒が「互いのよさを認め合った」と答えていた。その結果から、運動会でも友達の取組のよさに目が向けられていったことがわかる。

資料1　互いのよさを認め合ったか



さらに、その「振り返り」の結果を踏まえ、運動会へ向けての個人の目標を決めた。その主なものは次の通りである。「クラスのために朝練・昼練に行く」「苦手な人にアドバイスをする」「みんながんばれる雰囲気作り」。これらの個人の目標から、学級全体に目が広がっていき、みんなのために自分ができることを考えるようになっていったことがわかる。さらに、これらの個人の目標をもとに全員の願いを一つにした「助け合い、努力し合って、がんばれ運動会」という学級の目標も決められた。

以上のことから、「ヒーローは〇〇だ！」による「振り返り」は、学級の友達に目が向けられ、「互いのよさを認め合う」ことができるようになるために有効であったと言える。

(2)　互いに協力し合うことができるようになったか。（見通し２）

ア　実践の概要

運動会後の学級活動における「振り返り」で、運動会への取組の中でみんなのために努力していた「ヒーロー」を挙げていき、互いのよさを認め合った。次に、運動会へ向けての取組や当日の様子を撮影したビデオの視聴と「頑張っていたねカード」に書かれた班のメンバーからのメッセージにより、互いのよさを認め合い、みんなと力を合わせていた自分たちの姿を確認し合った。さらに、合唱コンクールへ向けての個人の目標を決め、それをもとに全員の願いを一つにした「最後の合唱コンクール、みんなで協力し合いながら頑張ろう」という学級の目標を決め、練習計画を立てた。

イ　結果と考察

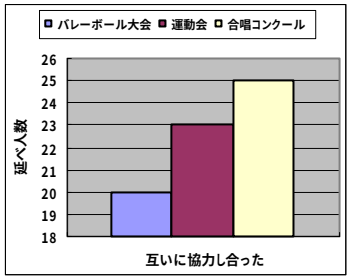
ビデオで、朝練や前日の準備や応援メッセージなど運動会へ向けての取組の様子と運動会当日の学級対抗リレーや綱引き、棒引きの様子を振り返った。資料２は、そのビデオから抜粋したものである。運動会後の振り返りで、「一人一人の力が一つにまとまった感じがした」と書いていた生徒が半数以上いた。それは実体験だけでなく、ビデオの視聴による「振り返り」で、自分の目では見られなかった友だちのよさを知ったり、バトンをつなぐために真剣に走っている姿や声を限りに応援している様子など、みんなで力を合わせて取り組んでいる自分たちの姿を客観的に確認し合ったりしたことにもよると考える。

資料2　運動会での取組の様子

また、「みんなの頑張った姿に感動した。」「全部の種目や本番に向けての練習、みんなに声をかけてくれた人や（みんなが）進んで朝練に来たから、私もできた。」「バレーボール大会より気合いが入っていて、朝練にみんな遅れてこなかった。」と振り返っていた生徒もいた。

資料３は、３つの学校行事後の振り返りでの「互いに協力し合ったか」についての自己評価の結果である。バレーボール大会、運動会、合唱コンクールと学校行事を重ねるごとに「協力し合った」と答えている生徒の数が増えていった。

資料3　互いに協力し合ったか



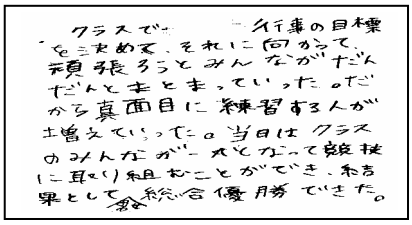
資料４は、Ｂ男への「頑張っていたねカード」である。その記述内容から、班のメンバーが、Ｂ男の「一生懸命な走り」「気合い」などのよさや、片づけの時のよさを認めていったことがわかる。Ｂ男は、「頑張っていたねカード」をもらって、「みんなが見ているものだなあと思った」と感想を書いている。また、Ｃ子は、「みんないろいろと見ていてくれたなあと思った。うれしかったです。私もクラスのみんなが頑張っていたことをいっぱい探したいと思いました。」と書いている。それらの記述内容から、学級のみんなのよさを意識し、学級全体へと目が広がり、一人一人のよさに気づくようになっていったことがわかる。運動会後の振り返りの結果を踏まえて決めた、合唱コンクールへの取組の個人の目標は、「（みんなに迷惑をかけないよう）自分のパートに責任を持つ。」「朝練にちゃんと来て歌う。」「毎日一生懸命練習する。」というものが多かった。それをもとに全員の願いを一つにした学級の目標の達成を目指し、協力し合いながら自主的に朝練に取り組んでいった。

資料4　B男への「頑張っていたねカード」

○（D子より）全員リレーの１番（第一走者）で一生懸命走っていた。　○（E子より）片づけを頑張っていた。　○（F男より）全員リレーの第一走者の時の走りは、全力でがんばっていました。　○（G男より）リレーの一番の時の気合いがすごかった。　○（H子より）足速いね。

資料５は抽出児Ａ子の運動会を振り返って書いた文章の一部を抜粋したものである。バレーボール大会の時には学級で一つのことをすることは「つまらない、くだらない」と思っていたＡ子であったが、「各行事ごとにみんなで話合ったり、友だちのよいところを見つけ合ったり」、「クラスで行事の目標を決めてみんながだんだんとまとまっていった」りしたことにより、運動会に向けて「まじめに練習する人が増え」、「みんなが一丸となって競技に取り組むことができ」たので、「心の底からうれしいと思った。」というように、学級という集団に対する意識が変わってきていることがわかる。

資料5　A子の運動会の振り返り（抜粋）


クラスで行事の目標を決めて、それに向かって頑張ろうとみんながだんだんとまとまっていった。だから真面目に練習する人が増えていった。当日はクラスのみんながいっしょになって競技に取り組むことができ、結果として総合優勝できた。

以上のことから、運動会へ向けての取組や当日の様子を撮影したビデオの視聴と「頑張って

いたねカード」による運動会後の「振り返り」は、学級全体へと目が広がり、学級の目標の達成を目指し「互いに協力し合う」ことができるようになるために有効であったと言える。

(3)　互いのよさを高め合う関係づくりができたか。(見通し３)

ア　実践の概要

合唱コンクールへの取組の途中での学級活動における「振り返り」で、合唱コンクールへ向けて「ヒーローを目指す君への手紙」を匿名で級友二人に宛てて書いた。さらに、級友二人からの自分宛ての手紙を読むことによって、合唱コンクールへの取組を振り返った。また、その結果を踏まえ、合唱コンクールへ向けての自分の決意を「ヒーロー宣言」により級友に伝え、一人一人の思いやこれからの取り組み方を確認し合った。

イ　結果と考察

資料６は、Ｉ子からＪ子、Ｋ子へ送られた「ヒーローを目指す君への手紙」である。資料６から、合唱コンクールに向けて「毎朝、早く朝練に来ている」、「(練習の時) きちんと注意している」、「テープにとる」「大きな声で歌っている」などいろいろな角度からＪ子、Ｋ子それぞれの取組のよさに目を向け、そのよさを認めていることがわかる。

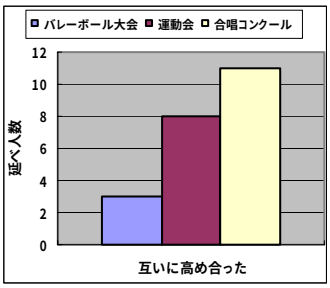
資料６　Ｉ子からＪ子、Ｋ子へ送られた「ヒーローを目指す君への手紙」

○（Ｊ子へ）いつもやる気があってすごいなあと思っています。朝練は早く来ているし、男子がうるさいときちんと注意しているし、テープに曲をとってくれたりして、頑張っていて偉いです。
○（Ｋ子へ）毎朝、早く来て歌の練習頑張っているよね。いつも大きな声で歌っているのは聞こえてきます。これから、残りわずかの練習、みんなで頑張りましょう。合唱コンクールでは力を出し切りましょう。

また、その手紙をもらったＪ子、Ｋ子は、差出人は誰だかわからないが、学級の中の誰かが自分の取組の様子に目を向け、それを認めてくれているのがわかった。さらに、自分の取組を振り返った結果を「ヒーロー宣言」に生かし、「声を響かせるようにする」「朝練に毎日来る」「悔いを残さないように練習する」など、合唱コンクールへ向けての決意をみんなに伝え、思いを新たにした。

資料７は、３つの学校行事後の振り返りでの「互いに高め合ったか」についての自己評価の結果である。資料７から、バレーボール大会、運動会、合唱コンクールと行事を重ねるごとに「互いに高め合った」と答えている人数が増えてきたことがわかる。それは、「ヒーローを目指す君への手紙」により、学級のみんなのよさを認め合い、よさを共有し合ったことにより、学級集団としての意識が高まっていったからであると考える。

資料７　互いに高め合ったか



学級集団としての意識が高まるにしたがって、学級の中の人間関係が深まっていき、「(安心して) 言いたいことが言え」、「いろいろな人と話すようになった」というように、生徒たちの中から自然に意見を言い合い、相談し合えるような集団へと変容していった。

資料８は、「３つの学校行事を通して学んだこと」についてまとめたものである。資料８から、「みんなのよいところ」に目が向けられ、「周りの人のこと」が広く見られるようになっていったことがわかる。また、「みんなと協力すれば、小さな力が大きくなる」ことや「一つの目標に対して心を一つに（学級が）まとまって」いき、「みんなと団結するというすばらしさに気づいて」いったことがわかる。

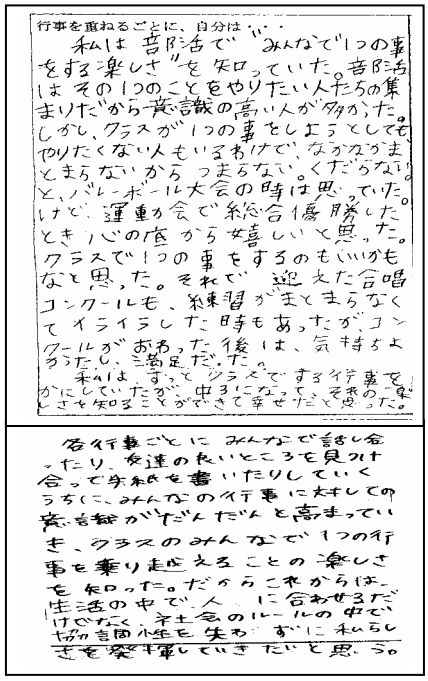
資料８　３つの学校行事を通して学んだことは何ですか？

○みんなのよいところなど、周りが広く見られるようになった。　○自分のことだけでなく、周りの人のことも考えられるようになった。　○みんなと協力すれば、小さな力が大きくなるんだと思った。だから、だれとでも協力する。
○みんなで協力できるようになって、深くなった。　○自分にできることを精一杯やる。　○一つの目標に対して心が一つにまとまってきた。　○クラスのみんなと団結するというすばらしさに気づいた。

進級当初、学級内の人間関係は、個人と個人の結びつきが弱くバラバラであったが、常に学級全体や級友のよさに目を向けられるような「振り返り」方を工夫することによって、個人と個人から集団へと結びつきが強くなっていき、学級集団としての意識が高まっていった。それは、「最初は、みんな気持ちがバラバラだったけれど、行事を重ねるごとに（みんなの）気持ちが一つになってきた。団結力が出てきた。」や「自分たちのクラスのよいところは、みんな仲がよく明るい雰囲気があり、団結力が強く、みんなで頑張ることの楽しさ・大事さを知っていることです。卒業までの残り少ない中学校生活をみんなと共に頑張っていきたい。」という生徒の感想にも表れている。

資料９・10 は、抽出児Ａ子の「３つの学校行事を振り返って」の自己評価とそれを構造化したものである。

資料10　A子の3つの行事の振り返り（自己評価）

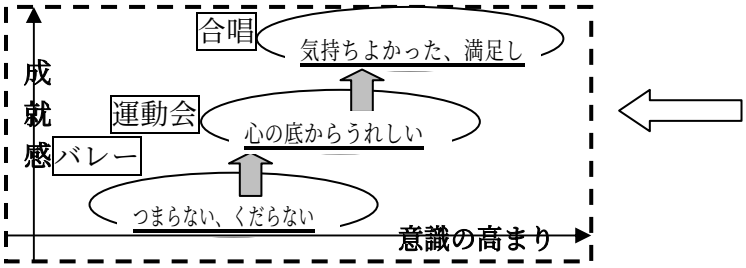

行事を重ねるごとに、自分は…

私は 部活で "みんなで1つの事をする楽しさ" を知っていた。部活はその1つのことをやりたい人たちの集まりだから意識の高い人が多かった。しかし、クラスが1つの事をしようとしてもやりたくない人もいるわけで、なかなかまとまらないから つまらない。くだらない。と、バレーボール大会の時は思っていた。けど、運動会で総合優勝したとき、心の底から嬉しいと思った。クラスで1つの事をするのもいいかもなと思った。それで 迎えた合唱コンクールも、練習がまとまらなくてイライラした時もあったが、コンクールがおわった後は、気持ちよかったし、満足だった。

私は、すっと クラスでする行事をばかにしていたが、中3になって、その楽しさを知ることができて幸せだと思った。

各行事ごとに みんなで話し合ったり、友達のよいところを見つけ合って手紙を書いたりしていくうちに、みんなの行事に対しての意識がだんだんと高まっていき、クラスのみんなで1つの行事を乗り越えることの楽しさを知った。だからこれからは、生活の中で人に合わせるだけでなく、社会のルールの中で協調性を失わずに私らしさを発揮していきたいと思う。

資料9　A子の感想の構造化



合唱コンクールに向けて、時には、練習がまとまらなてイライラもしたが、みんなに練習を呼びかけたり、話し合ったりしながら「みんなの行事に対しての意識がだんだんと高まっていき、クラスのみんなで一つの行事を乗り越えることの楽しさを知った」から、「終わった後は気持ちよかったし、満足だった」と述べている。「ずっとクラスでする行事をばかにしていた」Ａ子であったが、「中３になって（行事への取組を通して）その楽しさを知ることができた。」とも述べている。これからは、「（社会）生活の中で、人に合わせるだけでなく、社会のルールの中で協調性を失わずに私らしさを発揮していきたい」と、これからの生き方や人との関わりについても考えている。

以上のことから、「ヒーローを目指す君への手紙」及び「ヒーロー宣言」による合唱コンクールに向けての「振り返り」は、集団としての意識が高まり、「互いのよさを高め合う」ことができるようになるために有効であったと言える。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

○　学校行事の体験活動後の「振り返り」に視点を当て、学級活動において、全員でその活動への取組の成果や課題について振り返り、その結果を次の学校行事に生かしていくことは、「互いのよさを認め合い」、「互いに協力し合い」、「互いのよさを高め合う」と段階を追って、望ましい人間関係を深めていく上で有効であった。

○　目標に照らした毎日の取組の「振り返り」など、学校行事への取組の意欲を持続していくための手だてをさらに工夫していくことが、今後の課題である。

＜参考文献＞
・宇留田敬一他監修　特別活動実践講座９「学級活動」　特別活動実践講座刊行会刊
・宇留田敬一他監修　特別活動実践講座 16「学校行事」　特別活動実践講座刊行会刊